

講義名	教養特講 II (プレゼンテーション技法実践)					授業形態	
担当教員	松岡 陽子	開講期・曜日・時限	後期 水曜日 3 時限				
		単位数	2	履修開始年次	1 年生	ナンバリング・コード	LBA118

主題と概要

図解「驚愕特許」(プレゼンテーション技術入門)では、あらかじめ想定された統一観念に沿って実施を行いながら、いわばプレゼンテーション技法の「型」を習得を目論む。それに続く本授業では、ビジネスシーンとしての社会的実用により近い形で、プレゼンテーション技法の応用的展開を目指す。すなわち、社会の現実を踏まえた企業課題の受講者ご自身の自分自身が考察、発見して、情報収集・分析も自分たちで行うが、独自のプレゼンテーションを構築し、発表していただく。授業方法として「驚愕特許」(型)を襲襲し、グループワーク(協働学習)を中心に進めていく。ここではすべてのプレゼンテーションを実践をグループ単位でおこなう予定である。

到達目標

2. 仲間と協議しながら、企画を立案し、それを効果的に提案するためのプレゼンテーションを実践できるようになる。
3. 仲間と協議しながら、解決すべき課題を発見、整理して、その論点・解決策をわかりやすく提示するためのプレゼンテーションを実践できるようになる。
4. 様々な目的に応じ、十分に習得した技法を応用的に展開しながら効果的なプレゼンテーションを構築できるようになる。

提出課題

主要課題は以下1.から3.。その他、授業中を含めて課題提出を適宜、求める(4.)。

1. 中間課題①(企画プレゼン) : 作成資料(スライド等)、ふり返りレポート
2. 中間課題②(課題プレゼン) : 作成資料(スライド等)、ふり返りレポート
3. 期末課題(スピノフ・プレゼン) : 作成資料/レポート 等
4. その他: 授業中の提出を含む諸課題(相互評価シート等)

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

中間課題①②の作成資料に関しては、全体に向けてグループごとの評価・講評をフィードバックする。併せて、受講生同士の相互評価結果もフィードバックする。

評価の基準

以下の配分を目安とした総合評価を行い、総計60点以上を「合格」とする。ただし総計60点以上であっても、「授業の3/1（5回）以上を欠席した」場合、「以下1.から3.のうちいずれか1つでも0点であった」場合には、原則として「放棄／不合格」とする。

1. 中間課題①：計25点（％）
2. 中間課題②：計25点（％）
3. 期末課題：35点（％）
4. その他（上記以外の課題提出状況、授業への参加度、等）：計15点（％）

履修にあたっての注意・助言他

常態的な受講マナーの遵守を求める。なお、遅刻は15分を限度とし、それ以上は「欠席」として扱う。やむを得ない事情により欠席する場合は「欠席届」を提出すること（履修要項等を参照）。その他、グループワークが軸となる本授業では、各自が「主体」的に仲間との協働にあたることが肝要となる。そのことを十分理解したうえで履修していただきたい。

教科書

.使用しない。.

参考文献

.授業中に適宜、紹介。.

その他

授業中に適宜、プリント・電子ファイル・動画資料等の配布、共有、紹介をおこなう予定。

授業計画

- 第1回
オリエンテーション：本授業・学習の進め方、成績評価の方法、等
ガイダンスとグループ分け、プレゼンテーションとは、発表のテーマと評価項目・基準
- <予選>シラバスを確認する。残りの自身の経歴をより適切に、プレゼンテーションとはどのような行為かという自分なりの考えをまとめておく。(2時間)
<復習>本授業のふり返り、関連知識の深化・拡大を目指す各自の探求的学習。(2時間)
- 第2回 <グループAに向けてI>：アイズブレッキング ティースカッションしてある
<予選>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。(0.5時間) 情報収集、分析、企画立案
<復習>本授業のふり返り、関連知識の深化・拡大を目指す各自の探求的学習。発表に向けた準備(連絡手段の確認、情報共有、ファイル共有設定、等)。(3.5時間)
- 第3回 <企業提案のプレゼンテーションI>：①の作成
<予選>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。(0.5時間)
<復習>本授業のふり返り、発表準備。(3.5時間)
- 第4回 <企業提案のプレゼンテーションI>：③準備 スライド・ビジュアル(ハンドアウト)について
<予選>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。(0.5時間)
<復習>本授業のふり返り、発表準備。(3.5時間)
- 第5回 <企業提案のプレゼンテーションI>：④準備 読み原稿・リハーサルについて
<予選>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。(0.5時間)
<復習>本授業のふり返り、発表準備。(3.5時間)
- 第6回 <企業提案のプレゼンテーションI>：⑤発表(グループ発表・質疑応答、相互・自己評価)
<予選>本時間課題②(作成資料)の提出。シラバスの本時授業計画と関連事項、評価項目等の確認。(1.5時間)
<復習>本授業のふり返り、発表準備。(3.5時間)
- 第7回 <企業提案のプレゼンテーションI>：⑥相互評価に基づく優秀グループの選出 ふり返りと総括
<予選>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。(0.5時間)
<予選>シラバス(ふり返り)中間課題3(ふり返りレポート)の作成・提出。(3.5時間)
- 第8回 <グループワークに向けてII>：(断グループでの) アイズブレッキング プレゼントミミングとKJ法
<予選>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。(0.5時間)
<予選>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。拡大を目指した各自の探求的学習。発表に向けた準備(連絡手段の確認、等)。(3.5時間)
- 第9回 <質疑提问のプレゼンテーションI>：⑦の作成
<予選>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。(0.5時間) 情報収集、分析、企画立案
<復習>本授業のふり返り、発表準備。(3.5時間)
- 第10回 <質疑提问のプレゼンテーションI>：⑧準備 読み原稿・リハーサルについて
<予選>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。(0.5時間)
<復習>本授業のふり返り、発表準備。(3.5時間)
- 第11回 <質疑提问のプレゼンテーションI>：⑨発表 質疑応答について
<予選>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。(0.5時間)
<復習>本授業のふり返り、発表準備。(3.5時間)
- 第12回 <質疑提问のプレゼンテーションI>：⑩発表(グループ発表・質疑応答、相互・自己評価)後半
<予選>本時間課題③(作成資料)の提出。シラバスの本時授業計画と関連事項、評価項目等の確認。(1.5時間)
<復習>本授業のふり返り、発表準備。(3.5時間)
- 第13回 <質疑提问のプレゼンテーションI>：⑪発表(グループ発表・質疑応答、相互・自己評価)後半
<予選>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。(0.5時間)
<予選>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。拡大を目指した各自の探求的学習。発表に向けた準備(連絡手段の確認、等)。(3.5時間)
- 第14回 <質疑提问のプレゼンテーションI>：⑫発表(グループ発表・質疑応答、相互・自己評価)総括
<予選>本時間課題④(作成資料)の提出。シラバスの本時授業計画と関連事項、評価項目等の確認。(1.5時間)
<予選>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。拡大を目指した各自の探求的学習。発表に向けた準備(連絡手段の確認、等)。(3.5時間)
- 第15回
総まとめ：授業全体のふり返りと総括
その他：課題確認、成果報告、アンケート等
<予選>本時間課題⑤(作成資料)の提出。シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。(0.5時間)
<復習>本授業のふり返り、期末課題の作成・提出。(6.5時間)

授業形態（アクティブ・ラーニング）

- | | | | |
|---|--------------------------------------|---|--|
| ○ | ア：PBL（課題解決型学習） | | イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| ○ | ウ：ディスカッション、ディベート | ○ | エ：グループワーク |
| ○ | オ：プレゼンテーション | | カ：実習、フィールドワーク |
| | キ：その他（ＡＬ型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合） | | |

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目の修得を通じて、全学共通のディプロマポリシーである次の力を特に身につけることができる。

- (「ネパールのひび」へなれず、の精神をもった人材)
 ・知識・経験に長けたことができる。情報を交わることができる。
 ・知識を人に伝えることができる。論議的思考力を持った人材
 ・諸国や事業の文化・必要情報等を特定、適切な方法を用いて収集、調査、
 整理し、必要な人へ提供することができる。(情報収集力)
 ・諸国や事業の文化・必要情報等を特定、適切な方法を用いて収集、調査、
 整理し、必要な人へ提供することができる。(情報分析力)
 ・現象や事象のなかから隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき事項を設定することができる(問題発見力)
 ・問題を解決するために必要な手段や方法を決定し、実行に移すことができる(問題解決力)
 ・創造力・新しい視点などから発想を持った人材
 ・問題を解決するために必要な手段や方法を決定し、実行に移すことができる(問題解決力)
 ・仲間と協力して、仕事を遂行することができる(チームワーク)
 ・他者と意思の通いや立場の違いを理解し、協力を進めることができる
 ・自分と周囲の人々の役割や責任の所在を把握し、自らの役割を確かな果たすことができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

受講生のプレゼン実践に関する取り組みそのものが骨子となるという意味で、本授業は本質的に双方向型である。また技術的にも、オンラインによる動画共有システムやアンケート（クリック）といったICTを積極的に活用することにより、授業の双方向性、および授業内外の学習の促進・効率化を図る。

実務経験の有無及び活用

備考